

# 教科シラバス (数学科)

科目名 数学発展・数学B	学年 3年文系B	使用教材 【教科書】 【副教材】 ニューアクションレジエンド「数学Ⅰ+A」「数学Ⅱ+B」 改訂版 シニア数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B 受験編
単位数 (3・2) 必修	・選択	

## 【学習目標】

数学的な活動を通して、数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深め、事象を数学的に考察し表現する能力を高め、創造性の基礎を培うとともに、数学の良さを認識し、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を育てる。

## 【学習方法】

- ① 予習・復習を必ず行うこと。
- ② 授業や課外で取り扱われた内容は完全に理解すること。
- ③ 授業等で教材のすべての内容を取り扱うことは不可能であるため、取り扱わなかった問題は積極的に演習に取り組むこと。
- ④ 授業中は予習で解けなかった問題だけでなく解けた問題についても別解やポイントの把握に努めること。
- ⑤ 授業後は、解けなかった問題に関する公式やポイントの確認をした後、後日もう一度解くこと。

## 【学習評価】

次の4観点に基づき、学習内容のまとめ（定期考査までの学習範囲）ごとに下の評価項目により学期毎に評価（評価点）を行い、年間総合の評価は5段階の評定で総括します。

① 関心・意欲・態度	各单元における考え方や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらの事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。				
② 数学的な見方や考え方	各单元において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通じて、数学的な見方や考え方を身に付けている。				
③ 数学的な技能	各单元において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。				
④ 知識・理解	各单元における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。				
評価方法／観点	①	②	③	④	
授業態度・出席状況	◎				評価は定期考査が主ですが、授業態度、課題提出状況、小テスト等含めて評価します。
週末課題・長期休業課題	○	◎	○	○	毎週末実施
小テスト	○	○	○	◎	適宜実施
ペーパーテスト		○	○	◎	定期考査（年4回実施）・実力考査（年1回実施）

## 【学習アドバイス】

- ・学習内容に関する質問に隨時答えていくので、理解の難しい箇所があれば質問し早めに解決しましょう。
- ・進路を踏ました学習相談（個別指導）にも応じていますので、積極的に活用しましょう。

## 課外授業について

大学入試やセンター試験に対応するために、より難易度の高い問題演習を行います。まずは、自分の力で解いてみて、問題意識を持って課外に取り組んでください。

## 【年間学習計画】

月	学習内容（単元）	学習のねらい	学習活動（評価方法）
4	大学入試問題演習（数学ⅡB） 大学入試問題演習（数学ⅠA）	・入試問題が解けるようになる。	
5	大学入試問題演習（数学ⅡB） 大学入試問題演習（数学ⅠA）	・入試問題が解けるようになる。	課題の提出状況 定期的なノート点検
6	大学入試問題演習（数学ⅡB） 大学入試問題演習（数学ⅠA）	・入試問題が解けるようになる。	
7	大学入試問題演習（数学ⅡB） 大学入試問題演習（数学ⅠA）	・入試問題が解けるようになる。	
9	大学入試問題演習（数学ⅡB） 大学入試問題演習（数学ⅠA）	・入試問題が解けるようになる。	中間考査（10月上旬） 期末考査（11月下旬）
10	大学入試問題演習（数学ⅡB） 大学入試問題演習（数学ⅠA）	・入試問題が解けるようになる。	課題の提出状況 定期的なノート点検 授業態度の検証
11	大学入試問題演習（数学ⅡB） 大学入試問題演習（数学ⅠA） センター試験対策演習	・入試問題が解けるようになる。	
12	センター試験対策演習	・入試問題が解けるようになる。	
1	センター試験対策演習 2次試験対策演習	・入試問題が解けるようになる。	
2	2次試験対策演習	・入試問題が解けるようになる。	
3			

## ＜定期考査対策について＞

- ・教科書の例題、問、節末問題、練習問題を確実に解けるようになる。
- ・ニューアクションレジエンドの問題やシニアの問題に取り組み、計算の正確さと速度を磨く。
- ・日々の予習、授業、復習のサイクルを確立することが大切である。

## ＜对外模試対策について＞

- ・教科書の理解が不十分な場合は、繰り返し教科書の問題を解いてその定着に努める。教科書の理解が十分に進んでいる場合は、ニューアクションレジエンドやシニアの問題を繰り返し解いて、出題の形式やパターンを修得する。
- ・苦手な分野に特化して、基礎的な問題から標準的な問題まで、期間を決めて取り組むのも効果的である。